

KADOMA

3

Mar.2020

令和2年
No.001

門真の未来を切り拓く



門真市シテイプロモーション基本方針

特集 門真の魅力

門真市シティプロモーション基本方針

第1章

シティプロモーション基本方針の主旨02

シティプロモーションとは
なぜ門真市でシティプロモーションが必要か
門真市のシティプロモーション
基本方針の位置づけ
SDGsの目標達成に向けて

第2章

門真の現状と課題04

門真の人口推移・人口移動
門真の認知度やイメージ
門真を友人にすすめたいか
門真に住み続けたいか

第3章

門真の魅力08

知られていないたくさんの魅力
交通利便性が抜群に良いまち
人の温かさを感じる人情味あふれるまち
多様性のなかで子どもがたくましく育つまち
働きながら安心して子どもを育てられるまち
このまちで頑張る「人」が門真の魅力
ほかにもたくさん! 門真の見どころ

第4章

門真市の6つのチャレンジ16

門真ファンが増えることを目指します
「協働・共創」によるまちづくりをすすめます
門真のマイナスイメージを払拭します
SNSで門真への関心と信頼を高めます
市職員が門真の魅力を語れるようになります
近隣自治体との連携をすすめます

第5章

ターゲットと成果指標20

重点的に情報を発信するターゲット
成果指標



門真が好き



みんなの想いが



門真の未来を



切り拓く



「門真市のシティプロモーション」を考えるとここから始めよう



魅力発信課をつくった2017年4月の広報かどまの表紙写真。門真市のシティプロモーションは、ここから始まりました。

シティプロモーションとは

近年、多くの自治体がシティプロモーションに取り組んでいます。

シティプロモーションとは、「地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を効果的に訴求し、それにより、人材・物財・資金・情報などの資源を地域内部で活用可能としていくこと」*とされています。

本市でも2017年度から魅力発信課を創設し、市民や企業、大学などと連携しながら、様々な形でシティプロモーションに取り組んでいます。

人員や費用など限られた資源のなかで、より効果的、戦略的にシティプロモーションを進めていくためには、それに関わる人が考え方や目標を共有することが大切です。

そこで、本市がどのようなことを基本的な理念とし、何に重点的に

取り組んでいくかを門真市シティプロモーション基本方針にまとめます。

なぜ門真市でシティプロモーションが必要か

本市では転出者数が転入者数を上回る転出超過(社会減)が続いています。15～64歳の生産年齢人口の割合が減少し、高齢者人口の割合が増加すると、市税などの収入が減少し社会保障費用などの支出が増加することにより、将来にわたり必要な住民サービスを維持していくことが難しくなります。

そこで、若い世代や子育て世帯の移住・定住を促進し、急激に進む人口減少を緩やかにしつつ、バランスのとれた年齢構成を実現していく必要があります。

一方で、私たちの暮らしを支えているのは、公共機関による住民サービスだけではありません。地域でのボランティア活動や身近

な助け合いなど、市民の活動がとても重要な役割を占めています。

このまちで安心して暮らしていくためには、公共機関による住民サービスを維持することとあわせて、門真のために頑張ろうという人を増やす必要があります。

門真で暮らしたいという人や、門真のために頑張ろうという人を増やすには、まず、市内外問わず、門真を好きな人、「門真ファン」を増やしていく必要があります。

門真市のシティプロモーション

そこで、本市はシティプロモーションを「このまちで暮らす人が将来にわたって安心して暮らしていけるよう、門真ファンを増やすために行う、まちの魅力の発信や魅力の向上につながる取組み」と捉えます。

門真ファンを市内外に増やすことができれば、門真のいいイメージがたくさん発信され、門真に愛着

*河井孝仁、『シティプロモーション 地域の魅力を創るしごと』、東京法令出版、2009年

門真市のシティプロモーション

Purpose

目的

このまちで暮らす人が
将来にわたって安心して
暮らしていけるよう

Goal

目標

門真のファンを増やす
ために行う

Action

行動

まちの魅力の発信や
向上につながる取組み

門真市シティプロモーション 基本方針の位置づけ

門真市第6次総合計画 門真市の将来像
人情味あふれる！笑いのたえないまち 門真

門真市シティ
プロモーション
基本方針

各分野の
個別計画

広報など
個別の取組み

各部署の
個別の取組み

基本方針は、総合計画で掲げた門真市の将来像を実現するためのもの。各分野の個別計画や全ての部署の取組みの基本的な方針のひとつ。

を持つ人、門真を誇りに思う人、門真に来る人、門真に何らかの関わりをもつ人、門真で活動する人が増え、ひいては門真に住みたい、住み続けたいと思う人が増えることが期待できます。

本市は市民の皆さんが将来にわたって安心して暮らしていけるよう、シティプロモーションを推進します。

基本方針の位置づけ

この基本方針は、門真市第6次総合計画で掲げた門真市の将来像「人情味あふれる！笑いのたえないまち 門真」を実現するために、各分野の個別計画や全ての部署の取組みにおける基本的な方針のひとつとして策定します。

この基本方針の計画期間は、第6次総合計画とあわせて2020年度から2029年度までの10年間とします。第6次総合計画の改定や内容

が実態と合わなくなったときなど必要に応じて見直しを行います。

SDGsの目標達成に向けて

また、本市はSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成に取り組んでいます。この基本方針はSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」と、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現に向けて、シティプロモーションの観点から取り組むものです。

SDGs(持続可能な開発目標)とは…

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標。2030年にむけた17のゴールと169のターゲットからなる、人類と地球の持続可能な開発のために達成すべき課題とその具体的な目標を示したもの。門真市もSDGsの目標達成に向けた取り組みを推進していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

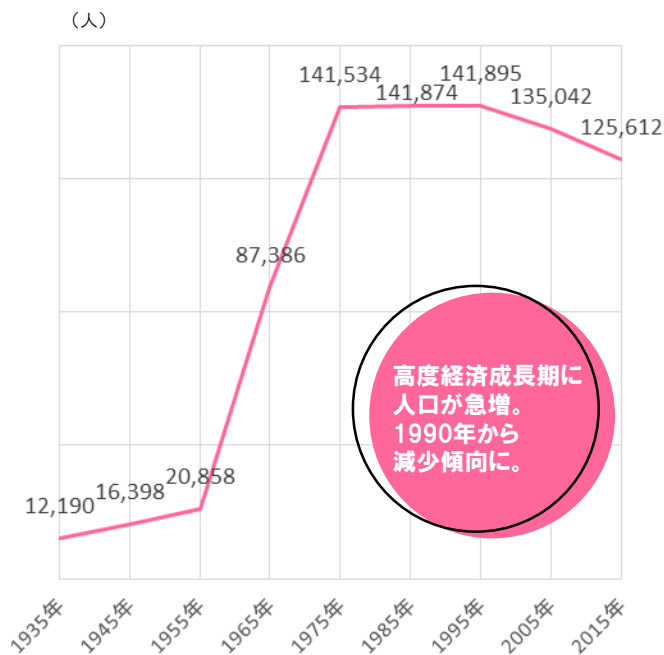


SDGs(持続可能な開発目標)の17のゴール

第2章 | 門真の現状と課題

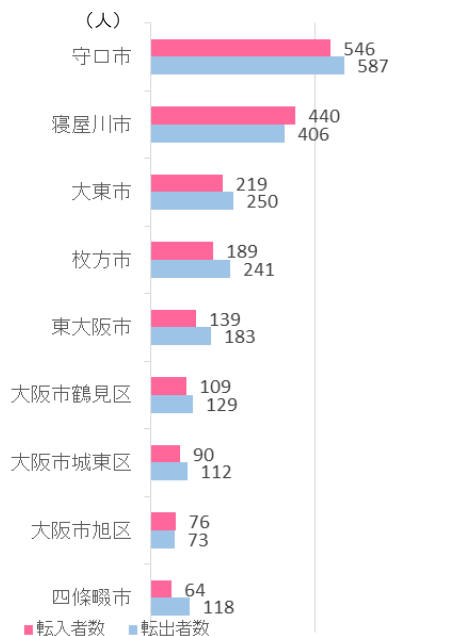
統計調査やアンケート調査で門真の現状と課題を整理してみよう

門真市の人口の推移



出典/住民基本台帳(各年10月1日時点)

門真市への転入者数 門真市からの転出者数 (自治体別)



出典/総務省住民基本台帳人口移動報告(2018年)

門真市の人口推移・人口移動

本市の人口は1955年から1975年の高度経済成長期にかけて、多くの人が地方から働くために移り住んだことにより急激に増加しました。

しかし、少子化や転出者数の増加により、1990年から減少傾向に転じ、2015年に大きく減少し、今後とも人口減少が続くと予想されています。

転出入の状況を年齢区分ごとに見ると、特に0～9歳の子どもと20～44歳で大きく転出超過(社会減)になっています。

このため、市税などの収入の減

少や社会保障費などの支出の増加、労働力や消費の縮小による地域経済の衰退、地域活動の担い手不足が懸念されます。

若い世代や子育て世帯の移住・定住を促進し、急激に進む人口減少を緩やかにしつつ、バランスのとれた年齢構成を実現していく必要があります。

本市に転入する人がどこから来ているかを見ると、多い順に守口市、寝屋川市、大東市となっており、本市から転出する人がどこに行っているかを見ると、多い順に守口市、寝屋川市、大東市となってい

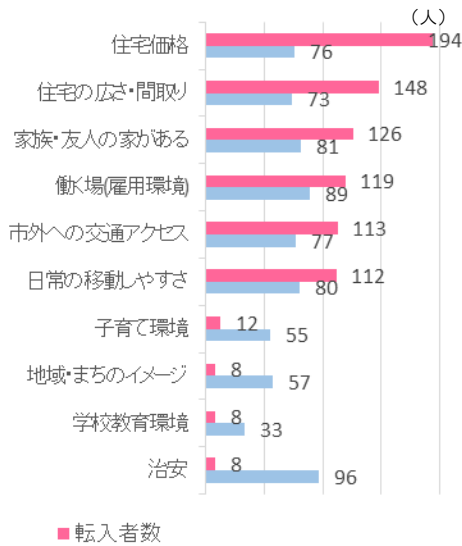
ます。

このことから、「都心から郊外へ」のような一方向の流れや、京阪沿線だけの移動ではなく、隣接する自治体間での転出入が多いことがわかりました。

本市に転入した人を選んだ理由を聞くと、多い順に「住宅の安さ」「住宅の広さ・間取り」「家族・知人の家がある」となっており、門真市から転出した人に他市を選んだ理由を聞くと、多い順に「治安」「働く場」「日常の移動のしやすさ」となっています。

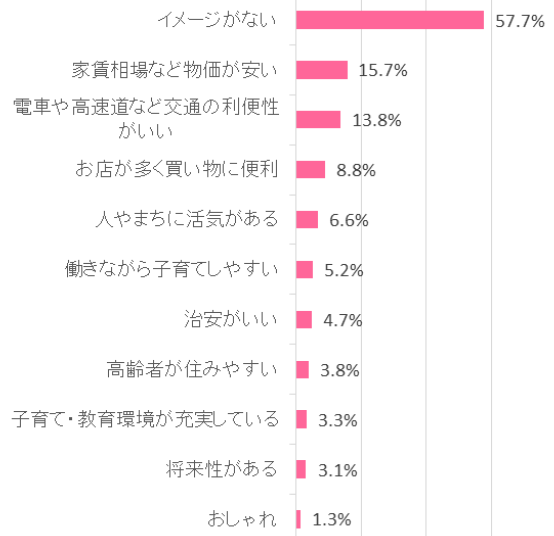
このことから、本市を選ぶ主な

門真市に転入した理由 門真市から転出した理由



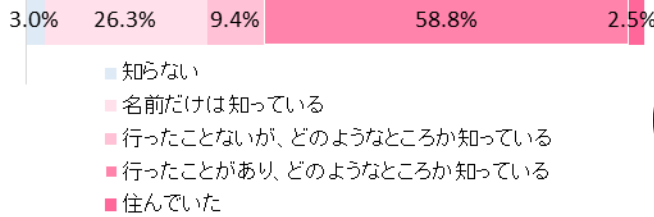
出典/門真市転入者・転出者アンケート(2019年)

門真市のイメージ



出典/門真市外在住者に対するアンケート(2018年)

門真市の認知度



出典/門真市外在住者に対するアンケート(2018年)

転入者が多い近隣の24市区における若者の認知度は97%とかなり高い。

理由は「住宅」に関することをあげることが多く、他市を選ぶ主な理由は「治安」をあげる人が多いとわかりました。

「門真市転入者・転出者アンケート」市民課窓口にて2018年10月から1年間実施。転入者640人、転出者643人から回答を得ました。回答者の年齢は20代がもっとも多く、転入者で47.3%、転出者で42.9%でした。

門真市の認知度やイメージ

インターネットを活用したアンケート調査では、市外の若者で門真を「知らない」という人は3%、「知っている」という人は97%でした。全国的な認知度調査を行った

ことはないものの、転入者が多い近隣24市区における若者の認知度はとても高いことがわかりました。

門真を知っている人のうち、61%は門真に「住んでいた」または「行ったことがある」人でした。

市外の若者が持つ門真のイメージでは、「イメージがない」と回答した人がもっとも多く、次いで「家賃相場など物価が安い」、「電車や高速道路など交通の利便性がいい」があげられました。

市外の若者に門真の住環境や施策について聞くと、「18歳までの医療費助成」や「2029年の大阪モ

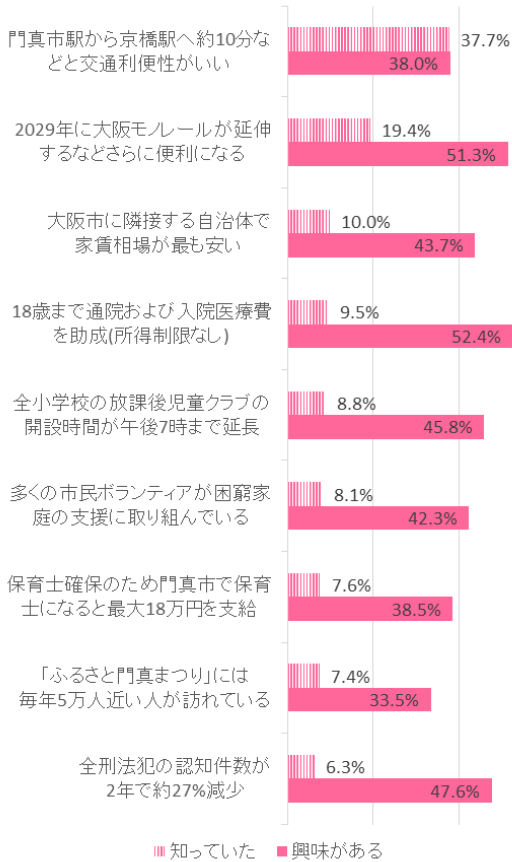
ノール延伸」「全刑法犯の認知件数減少」などをはじめ、多くの項目で「知らなかったが興味がある」という人が多いことがわかりました。

このことから、市外在住者に門真

「門真市外在住者に対するアンケート」インターネットを活用して2018年12月から3週間実施。2017年住民基本台帳人口報告で門真市への転入者が30人を超える24市区に住む20～39歳の男女1000人から回答を得た。24市区は次のとおり。

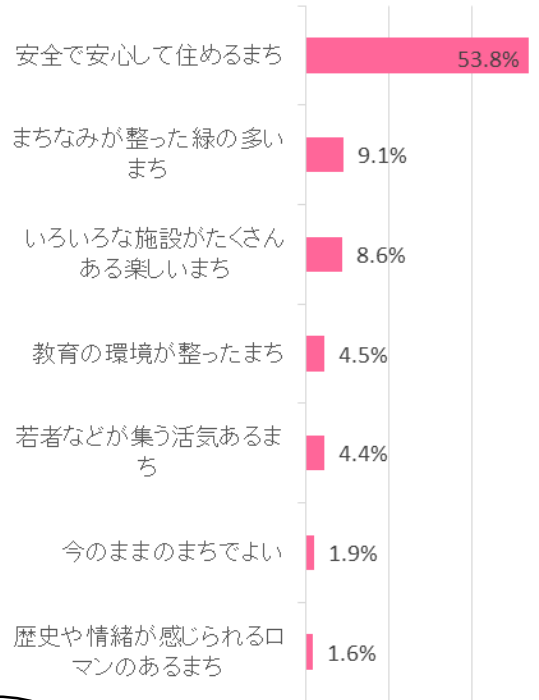
大阪市都島区・浪速区・東淀川区・旭区・城東区・淀川区・鶴見区・北区・中央区、豊中市、吹田市、高槻市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、寝屋川市、大東市、摂津市、東大阪市、四條畷市、交野市、京都府京都市伏見区、兵庫県尼崎市

門真市の住環境・施策の認知度と関心度



■ 知っていた ■ 興味がある
出典/門真市外在住者に対するアンケート(2018年)

門真市がどのようなイメージのまちになることを望むか



出典/門真市市民意識調査(2018年度)

施策の認知度に比べて関心度が高い。「知らなかったけど興味がある」という人が多いことがわかる。

の魅力や施策を伝えることができれば関心をもってもらえることがわかりました。

市民意識調査で「門真市がどのようなイメージのまちになってほしいか」を聞くと、「安全で安心して住めるまち」と回答した人が圧倒的に多くなっていました。

この項目は1988年からずっと1位にあげられていますが、近年、犯罪認知件数は大きく減少しており、実態と異なる過去のイメージを引きずっている可能性があります。

こうした過去のイメージを払拭するためには、治安に関する正しい

情報を効果的に発信することが重要です。

「門真市市民意識調査(2018年度)」郵送により2018年11月から1か月実施。20歳以上の市民929人から回答を得た。

門真市を友人にすすめたいか

市民に「門真市を友人にすすめたいと思うか」を0～10の11段階で聞いたところ、推奨者(8～10と答えた人)は4%で、そのうち推奨意欲が高いのは20～30代男性(6%)で、低いのは20～30代女性(1%)となっています。

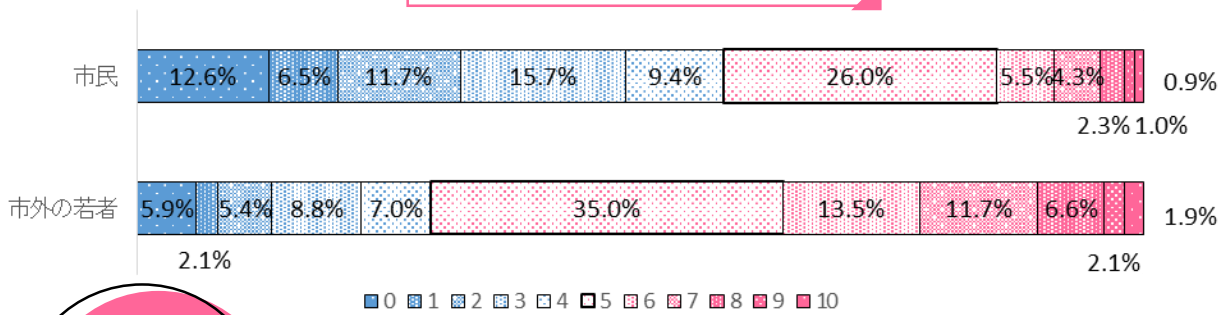
一方、市外の若者における推奨者は11%となっており、そのうち

推奨意欲が高いのは20代男性(17%)や、月1回以上本市に来ている人(21%)で、低いのは30代女性(7%)となっています。

以上の結果から、現在、市民が門真を友人にすすめたいと思う気持ちはとても低い状況にあることがわかります。

門真ファンを増やすためには、多くの市民がおすすめしたくなるような門真の魅力を共有することにより、この状況を改善していく必要があります。

門真市を友人におすすめしたいと思うか

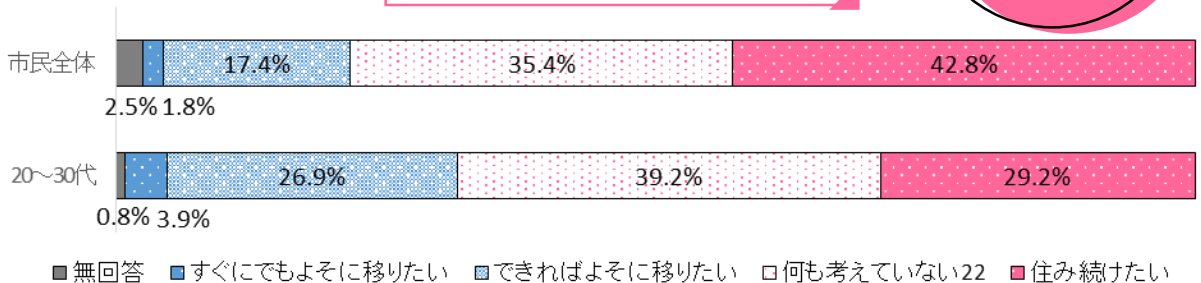


出典/門真市外在住者に対するアンケート(2018年)・門真市市民意識調査(2018年度)

門真を友人に
おすすめしたいと思う人
がもっと増えるには？

「何も考えていない」
という人が「門真市に
住み続けたい」と思う
ようになるには？

門真市に住み続けたいと思うか



資料:門真市市民幸福実感に関する意識調査(2018年度)

門真市に住み続けたいか

「あなたは今後も門真市に住み続けたいと思いますか」という問いでは、20~30代では「住み続けたい」という人が29%、「よそに移りたい」という人が31%となっていました。

「なにも考えていない」という人が39%でもっとも多いことから、このような人が「門真市に住み続けたい」と考えを変えてくれるようなアプローチが必要です。

両調査は対象年齢が異なることに注意。市民意識調査は20代から80代以上、市外アンケート調査は20~39歳。

門真市第6次総合計画

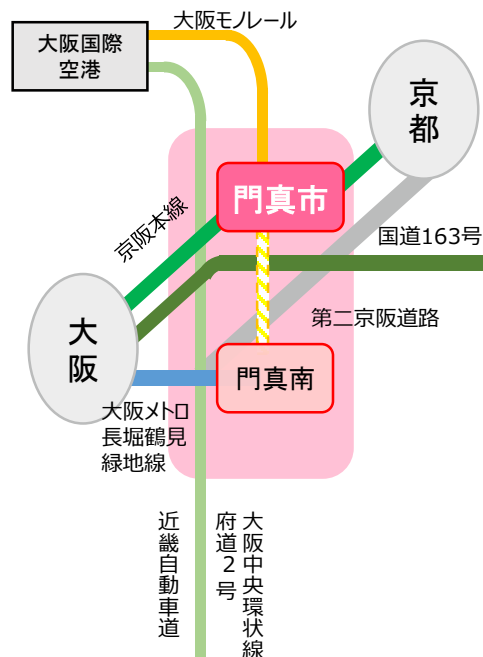
「わかる！めざす！使える！計画」をコンセプトに、2020年度から10年間の本市の将来を展望し、まちづくりの基本的な方向性を明らかにするものです。基本目標として、①出産・子育てがしやすく、子どもがたくましく育つまちの実現、②地域の中で活き活きと、健康で幸せにくらせるまちの実現、③安全、安心で快適な住まいと環境のあるまちの実現、④誰もが活躍できる賑わいと活気のあるまちの実現を掲げています。

第3章 | 門真の魅力

どんな人に魅力を感じてもらいやすいまちなのかを考えてみよう



門真市の主な鉄道・道路



門真市南西部にある門真JCTから北東を望む。門真JCTには2029年の大阪モノレール延伸で(仮称)門真南駅が設置される予定。

知られていないたくさんの魅力

「イメージがない」と多くの市外の若者に思われている門真ですが、実はあまり知られていないだけで、たくさんの魅力があります。

自分が住むまちの魅力を5つ以上あげられるという人の約75%が、まちをより良くしたいと思っているという調査結果があります。^{*} 門真の魅力を実効的に発信していくために、門真がどのような魅力をもっているまちなのかを整理するとともに、どんな人に魅力を感じてもらいやすいまちなのかを考えてみます。

^{*}河井孝仁、『「失敗」からひも解くシティプロモーション』、第一法規株式会社、2017、P9

交通利便性が抜群に良いまち

門真には京阪電車の西三荘駅、

門真市駅、古川橋駅、大和田駅、萱島駅、大阪メトロ長堀鶴見緑地線の門真南駅、大阪モノレールの門真市駅と、コンパクトなエリアに7つの駅があります。

さらに、2029年に予定されている大阪モノレールの延伸で、JR学研都市線、近鉄けいはんな線、近鉄奈良線に乗り換えができるようになります。

また、近畿自動車道と第二京阪道路という2つの高速道路が通っており、計画が進められている阪神高速淀川左岸線延伸部が完成すれば、阪神高速、近畿自動車道、第二京阪道路が門真JCT(ジャンクション)でつながります。

すでに、大阪市だけでなく京都市や大阪国際空港(伊丹空港)にも行き来しやすいまちですが、今後、

交通の利便性はますます向上します。

交通利便性がこれほど良いにも関わらず、土地価格や住宅価格は大阪市内に比べて安くなっています。

便利なまちにお得に住めばそれだけ家計の負担が減り、子どもの教育費などあなたがより大切にすることをとお金を使うことができます。

近い将来、駅前や大手企業工場跡地において大型商業施設の建設など大規模なまちづくりが予定されています。「交通アクセスの良いまちに住みたい人」、「将来性のあるまちにお得に住みたい人」に門真はおすすりです。

職住近接の暮らしを

また、働く場が住まいの近くにあ

「職住近接」で通勤時間が短くなると、実際にどんなメリットがあるか若手職員で考えました。

題して「もしも通勤時間が1時間から5分になったら」

ここに掲載したもののほかにも、「自転車通勤になることで満員電車に乗らなくてよくなり、さらに健康になります」など色々なメリットがあげられました。



今よりも30分はゆっくり寝られます



子どもの食事や着替えを少し待ってあげられます



子どもを午後9時までに寝かしつけることができるかも。



今日一日の出来事を家族とお話することができます。



あなたが自由に使える時間が毎日2時間くらい増えます



災害など緊急の場合でもすぐに家族に会いに行けます。

イラスト協力：西口明穂さん(大阪樟蔭女子大学・元門真市総合計画審議会委員)

る「職住近接」の暮らしをしたい人にも門真はおすすめです。

通勤時間が短縮されることで家族と過ごす時間や自分の時間を増やすことができ、「ゆとりある暮らし」を実現できます。

さらに、門真には山がなく平坦な地形のため、自転車や徒歩での移動がとても楽にできます。

門真は事業所など働く場が多いことから、夜間人口に比べて昼間人口が多くなっています。

交通利便性の向上で大型物流施設の建設が進むなど、今後も雇用が増え続けると期待されています。

門真で働きながら他市に住んでいる人には、「職住近接」の「ゆとりある暮らし」を門真で実現してほしいと思います。

人の温かさを感じる 人情味あふれるまち

門真は高度経済成長期に地方から多くの人が流入し、様々な文化的背景を持つ人が助け合って発展してきたことから、今でも人の温かさを感じる、人情味あふれるまちだと感じます。

市民意識調査でも「家族・友人や周囲の人などと支え合いながら暮らしていると思う」という人が76%もいます。

子どもの貧困対策として2017年からスタートした「子どもの未来応援ネットワーク事業」では、支援が必要だと思われる子どもや家庭を、地域のなかでいち早く発見して専門チームへとつなぐ市民などの応援団員が1300人を超えました。

認知症の人が輝ける場をつくろう

と、ケアマネジャーや社会福祉協議会、市民団体が2018年に発足させた「ゆめ伴プロジェクト」は、認知症カフェや綿花栽培、スポーツイベントなど様々な取組みが評価され、厚生労働大臣最優秀賞などを受賞されました。

門真には、いい意味で「おせっかい」な人や、誰かが困っていたら「よっしゃ！まかとき！」という気概を持った人がたくさんおられるように感じます。

このようなつながりがあれば、たとえ災害時にすぐに自宅に戻れなくても誰かが家族を見てくれているという安心感があります。

下町的な雰囲気が好きな人、まわりの人と支え合いながら暮らしていきたい人、地域のつながりのなかで子どもを育てたい人に門真は



認知症カフェ



中学生英語プレゼンテーションコンテスト

ぴったりです。

「門真市市民幸福実感に関する意識調査2018年度調査結果報告書」郵送により2018年11月から1か月実施。20歳以上の市民929人から回答を得ました。

多様性のなかで子どもが たくましく育つまち

門真では小学校から英語に親しめるよう外国語教育支援員を配置するなど英語教育に力を入れています。

より実践的なコミュニケーション能力を伸ばす中学校では、本市が行う英語プレゼンテーションコンテストに多くの生徒が出場し、優秀な成績をおさめた生徒はオーストラリアの海外派遣研修に参加できます。

現在はICT教育にも力を入れて

います。2020年度から小学校で必須となるプログラミング教育に向けて、大学生の指導のもと小学生がロボットを活用してプログラミングを学ぶ授業を試行的に実施するなど、子どもたちの多様な学習機会を産官学連携でつくっています。

門真で暮らす外国人の比率は2.6%で、多くの学校で外国籍の子どもや外国につながりがある子どもとともに学んでいます。

門真では1990年代に中国につながりがある人が多く転入したことなどから多文化共生のための取組みがいち早く進められました。

近年、外国からの修学旅行生との交流も行うなど、多様な文化にふれながら学校生活を送ることができます。

また、学びたい意欲と一定の学

力があるのに、経済的な理由から家庭学習が困難な中学3年生を対象に、本市が費用を負担して学習塾講師の指導を受けられるKadoma塾を実施しています。

ほかにも、門真では野球やダンス、武道などスポーツが盛んなことから活発な子どもが多く、全国大会などで優秀な成績を残す子どももたくさんいます。

また、地域で子どもを指導する人や、活動を支援する人がたくさんいます。

子ども食堂や宿題カフェなど、子どもの居場所づくりのための活動を、地域の人が自発的に始め、今では市内全域に広まっています。

地域の伝統的なまつりや地域のイベントに参加することで、同じ地域に暮らす様々な人とお話をしな



ふるさと門真まつりを楽しむ親子

語学留学性とダンスで交流

から、地域の歴史や文化を肌で感じることができます。

このように、門真には子どもたちが育むいろいろな取組みがあり、多様な人と関わりながら成長することができます。

多様性のなかで子どもにたくましく育ってほしいと願う人はぜひ門真にお越しください。

働きながら安心して子どもを育てられるまち

本市は妊娠期から子育て期までワンストップで相談できる子育て世代包括支援センター「ひよこテラス」を2019年度にスタートしました。

妊娠の届出をしたときや産後には皆さんにお話をきき、妊娠や出産、子育てに関する不安をやわらげ、必要な支援を行います。

産後の大変なときは産婦人科に母子でお泊まりするなどして、助産師などに育児のアドバイスを受けながら身体を休ませることができます。

地域子育て支援センター「ひよこる〜む」では、雨の日でも子どもを遊ばせることができるうえ、子育てのちょっとした不安を保育士に気軽に相談することができます。

全国で1万6000人以上いると言われている待機児童。門真では保育事業所の開設や保育士確保策により待機児童ゼロを実現しています。(2019年4月1日時点)

本市は18歳まで子どもの医療費を助成しています。大阪府内トップクラスの助成制度で、お金のことを心配せず必要なときに病院につれていくことができます。

インタビュー Interview



門真生まれ門真育ちのタレント 川崎美千江さん

ABC「おはよう朝日です」リポーター。小学1年生と3歳の子どものママ。門真市子育て支援親善大使。趣味は空手道。

—結婚後市外へ。門真へ戻ってこられた理由は？

東日本大震災があって災害が起こったときのことも考えました。主人と私が仕事で帰れなくても、地元なら近所のおっちゃん、おばちゃんが助けてくれるから安心です。

—門真で子育て。実際どうですか？

門真の人って全然ツンツンしてへん。超下町(笑)。それでかな？うちの子は人懐っこい。のびのびしてる。明るく育ってほしいと思ってるから嬉しいですね。

小学校も担任の先生が熱心。学校がしっかりしているから私もちゃんとせなあかんわ〜って思います(笑)。



認定こども園で働く保育士さん

1歳6カ月児健診

元祖招き猫ガラスケ

門真でもっとも広く、子育て世帯に人気の弁天池公園では芝生をかけまわり吊り橋で遊べます。

ほかにも、スポーツイベントや移動動物園など子どもが楽しめる大きなイベントが市内で頻繁に行われています。

イベントでは、多くの市民に愛されている門真市イメージキャラクターの元祖招き猫「ガラスケ」と触れ合えます。

古川橋駅前の旧第一中学校跡地では、新たな広場や図書館の建設が予定されています。新しい図書館では特に子どもが楽しめる図書館をつくろうと検討が進められています。

2019年から全ての小学校の放課後児童クラブで午後7時まで預かれるようになり、安心して働けるよう

になりました。

門真では自校で給食をつくる学校調理方式を、全ての小・中学校で続けています。

お弁当を用意する必要がなく、栄養バランスが考えられた温かい給食を中学校まで子どもに食べさせることができます。

また、求職中の女性へのアドバイスや、キャリア形成につながるカウンセリングやセミナーを実施するなど、女性の就労支援にも力を入れています。

より多くの女性が門真市内で働けるよう、女性が働きやすい環境を整備する中小企業を支援しています。

このように、門真には子育てをサポートする制度や環境がしっかり整っており、今後もさらに充実を

図っていきます。

働きながら子どもを育てる人はぜひ門真をお選びください。

このまちで頑張る「人」が門真の魅力

2017年に10年ぶりに復活して以降、毎年開催されている「ふるさと門真まつり」では、約5万人の来場者に喜んでもらうため何百人もの人がボランティアスタッフをしています。

2004年から古川橋駅周辺で開催されているラブリーフェスタは、エリア内の企業や商店、様々な団体の人が一体となってまちを盛り上げています。

門真市シルバー人材センターは会員数が約1800人、収益の合計が約5億2000万円で、日本トップク



砂子水路の桜



わがまち門真市民ミュージカル



音楽のあふれるまちへ
みんなでつくる門真の第九 2019

みんなでつくる門真の第九

ラスのシルバー人材センターと
われています。会員の皆さんは門
真市内の様々なイベントや地域経
済を支えています。

桜の名所「砂子水路」では桜並
木をゆったりと通り抜ける田舟を地
元の方がボランティアで運行し、お
花見に訪れる人を楽しませています。

「わがまち門真市民ミュージカ
ル」は子どもから高齢者まで、総勢
100人でのミュージカルを2004年
から続けています。実行委員や指
導者の皆さんは演劇や音楽を通じ
て世代間交流と子どもたちの生き
る力を育てています。

「みんなでつくる門真の第九」は
音楽の力でこのまちを元気にしよう
と2014年からコンサートを続けてい
ます。

2018年からスタートした「門真国
際映画祭」には38の国と地域から
約1000本の映像作品の応募があり、
内閣府後援の「ふるさと名品オ
ブザイヤー」を受賞。「KADOMA」
を世界に発信しました。

門真市内の企業には「カドマイス
ター」として認定された製造業者な
ど卓越した技術をもつものづくり企
業の職人がたくさんいます。

門真れんこんをはじめとする地
元野菜を手塩にかけて育てる農家
の人や、まちおこしのためにと新た
な商品を開発するお店の人もたく
さんいます。

それぞれの地域では自治会、地
域会議、PTA、消防団、祭保存会
など地域に根差した組織で活動
する人がこのまちを支えています。
このほかにも、門真にはこのまち

インタビュー Interview



たくさんの方の応援を受けながら、れんこんバ
トンが次々と若い人につながっていく門真市
PR動画「門真Runner」はYouTubeや門真市公
式ツイッターで見ることができます。

大好きな門真に恩返し

田中ひなのさん

2019年、門真市PR動画のオーディ
ションに合格して出演した高校生。
門真国際映画祭のキャンペーンモ
デルもつとめる。

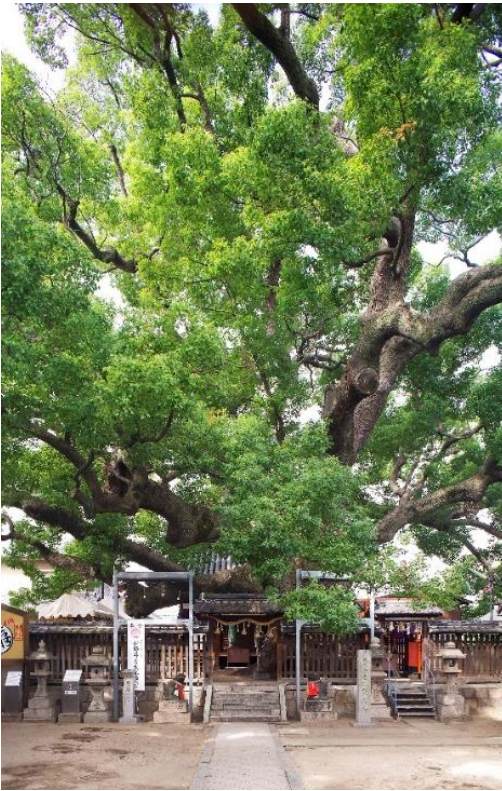
-出演しようと思った理由は？

中学生のとき、英語プレゼンコンテ
ストや海外派遣研修で貴重な経験を
させてもらったから、ずっと門真に恩
返しがしたいと思ってました。

-完成した動画はどうでしたか？

クオリティ高っ！音楽めっちゃマツ
チしてる！ってビックリしました。すぐ
に家族や友達に「見て見て！」って
送りました。まだ見ていない方は絶
対見てください！

田中さんのほかにも、海外派遣研修
に参加した生徒が就職後、門真市
総合計画審議会の委員になるなど、
本市の事業への参加をきっかけに
地域貢献してくれる若者が多くいま
す。



薫蓋(くんがい)クス



パナソニックミュージアム 松下幸之助像



願得寺

で頑張る人がたくさんいます。門真の魅力は「人」そのものです。

市民や門真に関わってくれる人が門真の魅力を高め、発信してくれる大切な存在です。

趣味や志向が多様化している現代社会では、好きなものは人それぞれです。多種多様な取組みがまちにあふれることで、より多くの人々がそれぞれの関心に合わせて色々な門真を好きになってくれると期待しています。

門真の総合的な魅力を高めるために、このまちで頑張る人、新しいことにチャレンジする人を本市は感謝の気持ちをもって応援します。

自分の力を社会にいかしたいと思う人、新しいことにチャレンジしたい人をお待ちしています。

ほかにもたくさん！ 門真の見どころ

樹齢1000年以上と言われる国指定天然記念物の巨木「薫蓋クス」。三島神社のご神木で、地元の人から長年にわたり親しまれており、東京2020オリンピック聖火リレーの門真におけるスタート地点にも選ばれました。

5世紀ごろに淀川の洪水を防ぐために仁徳天皇が渡来人に築かせたとされる大阪府指定史跡「伝茨田堤」。日本最古の大規模な土木工事と言われており、古事記や日本書紀に記されています。堤根神社や地元の保存運動により現代にその姿をとどめています。

2018年にオープンしたパナソニックミュージアム。門真市名誉市民第1号である松下幸之助の歴史館、ものづくりイズム館、さくら広場があり、年間約34万人が訪れてい

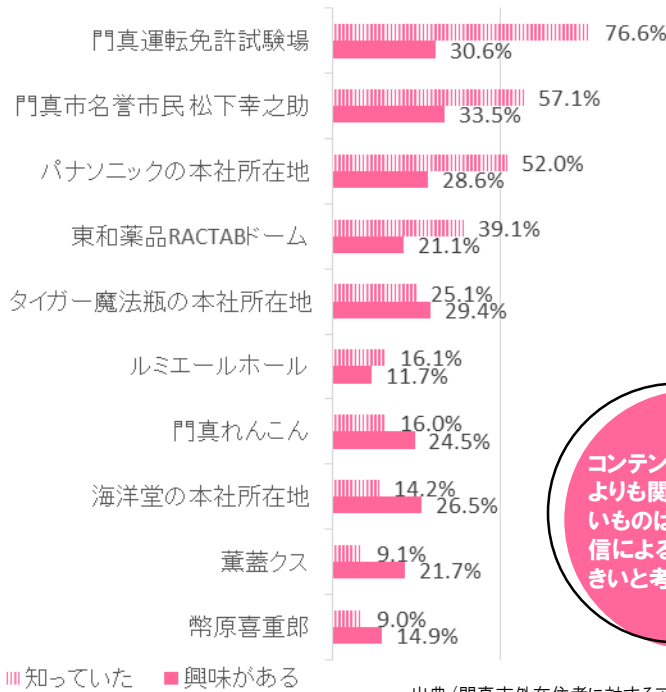
ます。館内では子ども向けの工作教室や松下幸之助に関する講座などもひらかれています。

終戦後の日本で第44代内閣総理大臣をつとめた幣原喜重郎と、歴史学者で台北帝国大学総長などをつとめた兄の幣原坦は、門真市一番町の出身です。生家跡には顕彰碑が、御堂町の願得寺には幣原家累代のお墓があります。

その願得寺は蓮如の子、実悟が創建した真宗大谷派の寺院で、玄関や太鼓楼などが国の登録有形文化財に指定されています。常称寺町には原水爆禁止運動の父といわれる安井郁生誕の地の碑があります。

フィギュア製作で有名な株式会社海洋堂は市内でミュージアムをつくることを予定されています。門真のものづくり技術と日本のサブカルチャーが、世界に向けてさら

門真市にあるものの認知度と関心度



コンテンツの認知度よりも関心度が高いものは、情報発信による効果が大きいと考えられる。

出典/門真市外在住者に対するアンケート(2018年)

に発信されることが期待されます。

大阪府立門真スポーツセンター「東和薬品RACTABドーム」には体育館やプール、スケートリンクなどがあり、フィギュアスケートの大会やショーには世界中から大勢の人が集まるなど、年間で約50万人が利用しています。

また、門真運転免許試験場には、毎日多くの人が申請などのため訪れています。

市外の人にこれらを「知っているか」「興味があるか」と聞くと、「薫蓋クス」や「海洋堂」などは知っている人が少ないものの興味のある人が多いということがわかりました。

市民にとってなじみ深いものでも市外の人にとっては新鮮で、これらの魅力を発信することでイメージの向上や門真を訪れる人が増えることが期待できます。

また、送電線の鉄塔、団地の給

水塔、ご当地マンホール、自動車ポッポ公園など、人によっては「めっちゃおもしろい！」と感じるものが日々の暮らしのそばにたくさんあります。

うどん屋、ラーメン屋、中華料理屋、洋食屋、お好み焼き屋、定食屋、和菓子店、洋菓子店、パン屋、酒屋、居酒屋、カフェ、レストランなどあげればきりがありませんが、門真にはおいしいお店がたくさんあります。

12km²のコンパクトなまちにもかかわらず、門真には人に紹介したくなる見どころが本当にたくさんあります。

門真の何かが好きな人、新しいまちの魅力を発掘・創造するのが好きな人なら、きっと門真を楽しんでいただけます。

どんなことを大切にしていくかをまとめてみよう

6つのチャレンジ

01 門真ファンが増えることを目指します

02 「協働・共創」によるまちづくりをすすめます

03 門真のマイナスイメージを払拭します

04 SNSで門真への関心と信頼を高めます

05 市職員が門真の魅力を語れるようになります

06 近隣自治体との連携をすすめます

門真ファンが増えることを目指します

大きな目標である人口の社会増やバランスのとれた年齢構成の実現は、大規模な住宅建設の有無、他自治体や企業のプロモーションなどによって左右されることから、本市のシティプロモーションでは第一に門真ファンが増えることを目指します。

門真ファンが市内外で増えることにより、門真のいいイメージが発信され、門真に愛着を持つ人、門真を誇りに思う人、門真に来る人(交流人口)、門真に何らかの関わりを持つ人(関係人口)、門真で活動する人(活動人口)が増え、ひいては門真に住みたい、住み続けたいと思う人が増えることで、転入者数が転出者数を上回る人口の社会

増の実現につながることを期待できます。

門真ファンを増やすために、まずは、広報などでこれまで取り上げられなかった人や活動に光をあて、メディアへ情報提供するなど、門真で頑張る人を積極的に応援します。

より広く知られるよう手助けすること、多くの人の関心を集めるようなしかけをつくること、活動しやすい環境を整えること、新しいチャレンジを手助けすること、市職員が感謝の気持ちをもって応援することなどを本市として推進し、「門真市に応援されている」という実感をもってもらえるよう努めます。

「協働・共創」によるまちづくりをすすめます

本市はこれまで「協働」によるまちづくりに取り組んできました。

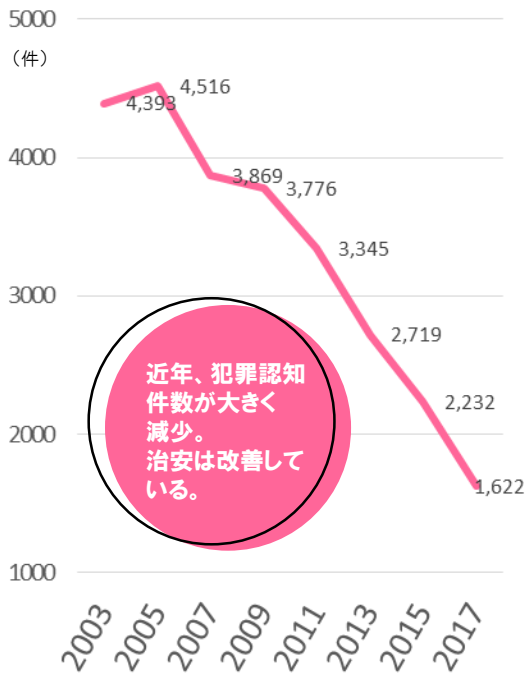
「協働」とは、市役所だけでなく市民や議会など多様な主体が共通の目標に向かってお互いに補完しながら協力するというものです。

今後はこれまでの「協働」を基本に、企業や大学、団体などさらに多様な主体が連携しながら、それぞれの知恵や経験を結集して解決策を見出し、実践的な取組みを通じて新たなまちの魅力や価値を

関係人口とは...

地域に住み続ける「定住人口」と、観光などで訪れる「交流人口」の中間的概念。移住にこだわらず、多様な方法で地域との関係性を段階的に強めていくことにより、無理なく人材の裾野が広がられるとされています。

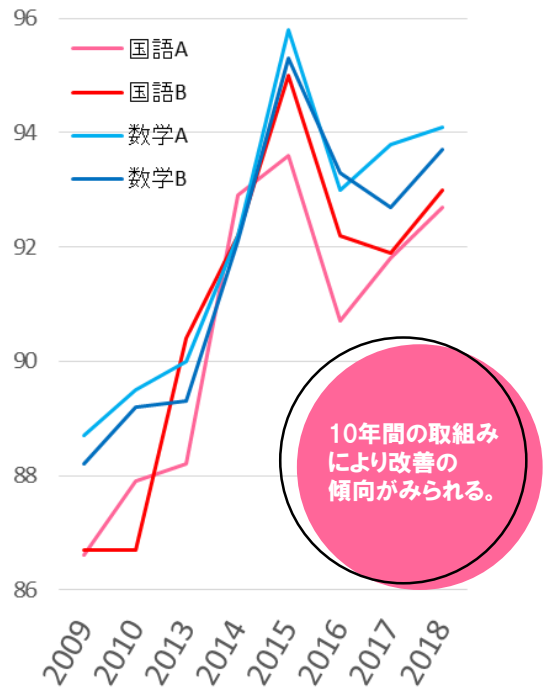
門真市における犯罪認知件数



近年、犯罪認知件数が大きく減少。治安は改善している。

資料:門真警察署

全国学力・学習状況調査(中学3年生)



10年間の取組みにより改善の傾向がみられる。

※全国平均を100として算出。
2011・2012年の全国調査は悉皆実施でなかったため記載なし

ともに創りあげていく「共創」に取り組めます。

本市は「協働・共創」によるまちづくりを進め、新たな門真の魅力や価値を創りあげていきます。

また、市民や企業、大学、団体などと連携してプロジェクトに取り組みむだけではなく、それを社会に発信するプロモーションや情報発信についても連携を進めます。

「協働・共創」によるまちづくりは、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指すものでもあります。

門真のマイナスイメージを払拭します

「門真は治安が悪い」というイメージを持つ人が多く、門真をおすすめできない最大の理由となってい

ます。

しかし実際には、防犯カメラや防犯灯を増設しているほか、警察と連携して特殊詐欺の抑止に努めるなど治安改善に力を入れており、近年、犯罪認知件数は大きく減少し、治安はととも改善しています。

また、未就学児の親が門真に住み続けようか引越そうかを考えたときに、気になるのは小学校の教育や環境です。

市民に本市の公立小中学校の教育内容や学校施設等が良いと思うか聞いたところ、「良いと思う」人が33%、「良いと思わない」人が63%で、過去の調査と比較すると「良いと思わない」人が増えています。

学校では、子どもが自ら学び考える力を身につけることができるよ

う基礎学力や子どもの生きる力の向上に力を入れており、この10年間の全国学力・学習状況調査結果では小・中学校ともに改善しています。

また、地域や大学、企業と連携した取り組みをすすめることで、学力や体力の向上、キャリア教育、いじめや不登校の問題に対応するなど、全ての子どもが将来に希望をもち、夢と幸せを実現していけるよう様々なことに取り組んでいます。

治安と教育が過去に比べて改善していることや、改善に向けた取り組みをしっかりと進めていることなどの実態を発信し、門真のマイナスイメージを払拭します。



地元を盛り上げるために活動する若者



門真市公式ツイッター

SNSで門真への関心と信頼を高めます

本市は主にツイッターを活用しており、現在のフォロワーは約2000人です。

SNSは広報紙やチラシに比べて情報を発信しやすいほか、市民や企業、団体などと連携しやすいというメリットがあります。

また、広報紙やチラシでは情報が届きにくい人や市外の人に門真の魅力を伝えることができます。

門真市公式ツイッターのフォロワーには海外の人もあり、門真の魅力は世界に通用する可能性を秘めています。

SNSを活用することにより、国内だけでなく、海外にも門真ファンを増やすことができます。

SNSの運用では、世の中の出来事にアンテナを張りながら門真市の取り組みや話題を積極的に発信するとともに、市民の暮らしに役立つ情報を正確に発信し続けていきます。

また、門真市内での取り組みに好感を持つ人に対して「いいね」機能を活用するなどしてフォロワーとの関係性を育んでいきます。

さらに、より多くの人に門真の魅力を伝えるとともに、災害時に複数のチャンネルで情報を発信できるよう、今後、インスタグラムやLINE、フェイスブックも新たに活用していきます。

門真ファンを増やすという目標に向けて、SNSの運用においては本真市への関心や信頼を高めること

を大切にします。

一方、変化の激しいインターネットの世界では情報発信のあり方が年々変わっていくと考えられることから、その時々状況にあわせて運用を見直します。

市職員が門真の魅力を語るようになります

基本方針の策定にあたり、市職員でワークショップやアンケートを行ったほか、門真市シティプロモーション基本方針策定プロジェクトチームで門真の魅力について議論しました。

フォロワーとは...

ツイッター上で門真市公式ツイッターのツイート(つぶやき)を受け取る人(アカウント)

広報紙に掲載された市職員



ルミエールホール



ふるさと門真まつりで遊ぶ親子



ラグビーワールドカップパブリックビューイング



フォトロゲイニングinもりかど

そのなかで市職員自身が門真の魅力についてもっと理解を深めようという意見がありました。

市職員には交通の利便性といった門真の魅力は浸透していますが、より説得力をもって市外の人に語るができるようになるためには、自分自身にとつての門真の魅力を考え、人に伝える機会をもつことが重要です。

市民がこのまちを誇りに思うこと「シビックプライド」とともに、市役所で働くことに誇りをもつこと「スタッフプライド」を高めることが重要です。

スタッフプライドを高めることにより、市職員のモチベーションを高め、少ない人数でも大きな成果を発揮する市役所が実現できると考えられます。

門真市職員は大阪府内の自治体でも平均年齢がトップクラスに若く、勢いがあります。このポテンシャルを最大限いかせるよう、本市は市職員がそれぞれに思う門真の魅力を語るができるようになるよう努めます。

近隣自治体との連携 をすすめます

シティプロモーションは自治体間の人口獲得競争といわれることもあり、実際に転出入先は近隣のまちが多くなっています。

しかし、門真は東西に約4.9km、南北に約4.3kmという狭いまちなので、買い物など日常の暮らしが自然と複数の自治体にまたがっている人が多くいます。

また、同じような課題や方向性を

もっているなど、まちの雰囲気も近隣自治体と近いものがあります。

門真ファンを増やすには関係人口を増やすことが重要です。関係人口は定住人口と違い、自治体間での人口の奪い合いにはならないため、連携することでお互いにWIN-WINの関係を築くことができます。

門真だけでなく北河内、大阪、関西が元気になることが大切です。

ひとつの自治体で取り組むよりも大きなことに取り組み、強力な発信力が期待できることから、門真市は自治体の枠を超えたエリアの魅力発信を、近隣自治体と連携して行うことを検討していきます。

第5章 | ターゲットと成果指標

どんな人を意識して情報を発信していくか考えよう

将来、移住・定住が期待できる人

交通アクセスの良いまちに住みたい人 1	将来性のあるまちにお得に住みたい人 2	自分の時間や家族との時間を大切にしたい人 3	門真に家族や友人が暮らしている人 4	まわりの人と支え合いながら暮らしていきたい人 5
下町的な雰囲気やB級グルメが好きな人 6	沿線や近隣の大学等に通う人 7	新生活を始めようとする人 8	門真の会社で働く人 9	門真で未就学児を育てている人 10
地域のつながりのなかで子どもを育てたい人 11	子どもにたくましく育てほしいと思う人 12	働きながら子どもを育てている人 13	門真の園に子どもを通わせている人 14	新たにお店やビジネスを始めたい人 15



Target

このなかでも特に重点的に情報を発信

■ 門真で未就学児を育てていて、子どもにたくましく育てほしいと思う人

■ 門真で働く20~30代で、自分の時間や家族との時間を大切にしたいと思う人

重点的に情報を発信する

ターゲット

門真ファンを増やすためあらゆる人に広く門真の魅力を発信していく一方、バランスの取れた人口構成の実現を目指すために重点的に情報発信を行うターゲットを考えます。

興味関心は人それぞれで、同じ年代であっても多様な価値観があります。それらをふまえながら、ライフステージや考え方などから、将来、移住定住が期待できる人を上の表にあげます。

限られた資源を有効に使うため

に、特に効果が大きいと考えられる次の人を、重点的に情報発信を行うターゲットとします。

門真市内で未就学児を育てていて、子どもにたくましく育てほしいと思う人

第一子が小学校に入学する前に市外に転出する人が少なくないと考えられるため、「門真に住み続けたい」「住み続けてもいい」と、この時期に思ってもらうことが重要です。

広報やSNS、メディアなどを活用してこの世代の関心を惹き、子育て

て環境の充実ぶりを知ってもらうとともに、治安や教育への不安を解消します。

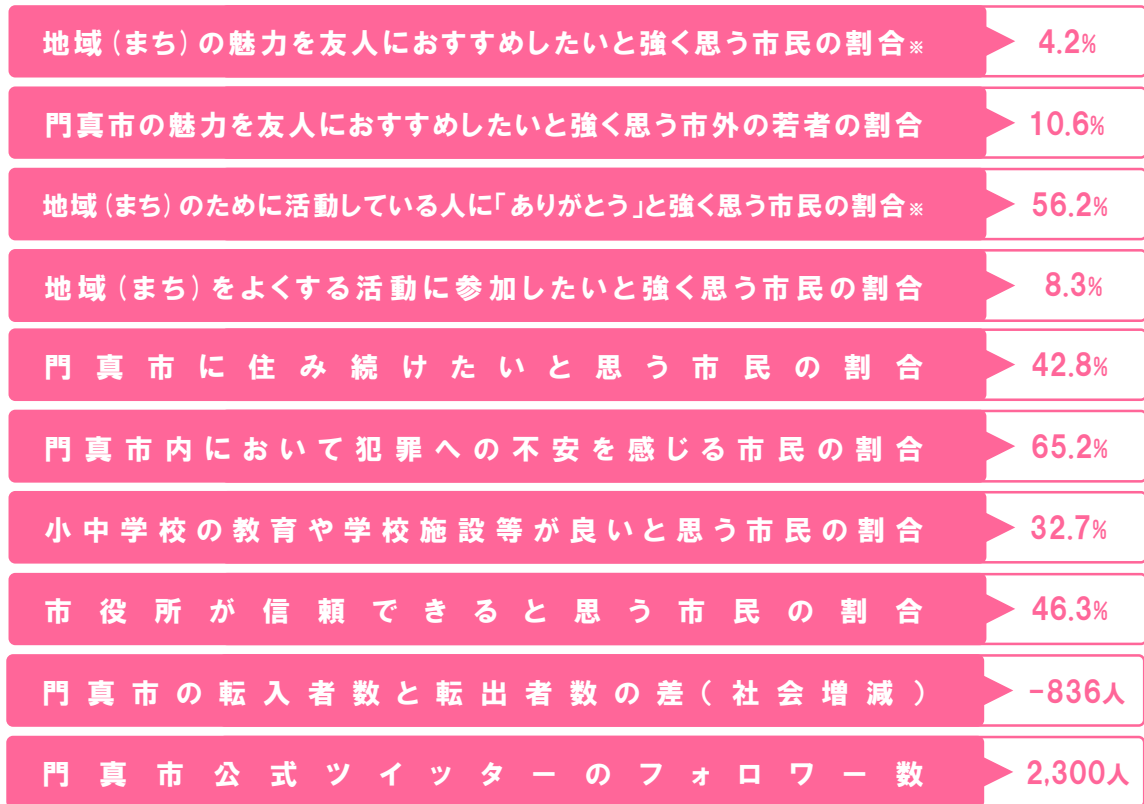
まわりの人と支え合いながら、多様性のなかで子どもにたくましく育てほしいと思う人に、門真でこれからも子どもを育てていきたいと思ってもらえるよう情報発信に努めます。



これらの数値が改善し続けることを目指す。

成果指標

枠内は直近の調査結果



※印は気持ちの強さを0~10で聞いて、8~10と答えた人の割合

門真市内の事業所で働く20~30代で、自分の時間や家族との時間を大切にしたいと思う人

市内事業所で働く20~30代には市外に住んでいる人が多くいると考えられます。また、門真市内に住んでいても結婚や出産、入学を機に、市外へ引っ越す人が少なくありません。

SNSやメディアなどを活用するとともに、事業所にも協力してもらい「職住近接」のメリットや門真市が進める子育て支援について知ってもらうとともに、治安や教育への不

安を解消します。

また、「門真は新しいことにチャレンジする若者を応援するまちだ」と感じてもらえるよう若者と連携して「協働・共創」によるシティプロモーションを進めます。

自分の時間や家族と過ごす時間を大切にしたいと思う人に、「門真ってええやん」と思ってもらえるよう情報発信に努めます。

成果指標

本市のシティプロモーションが成果をあげているかを上の表の指標で確認することとします。これら

の指標が改善し続けることを目指して、市役所の全ての部署が一丸となって取り組みます。

成果指標の確認や結果に対する分析と対策、推進のための総合調整、基本方針の見直しは、企画財政部魅力発信課が行います。

編集後記

策定にあたり、2年、研修やワークショップ、若手職員を中心としたプロジェクトチーム会議などを重ねました。市職員一人ひとりがこれほど門真の魅力について考えたことはこれまで無かったと思います。これからは、この基本方針をふまえ、それぞれの部署がそれぞれの取組みを進めることで、市民の皆さんと一緒に門真の未来を切り拓いていきます。(門真市シティプロモーション基本方針策定プロジェクトチーム)

門真市シティプロモーション基本方針

2020(令和2)年3月

発行 門真市

編集 門真市企画財政部魅力発信課